

区 分	専門科目—福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	相談援助演習					
英 訳	Seminar of Social Work Practice					
配当年次	3 年次	前・後期	必選別	選択	単位数	10 単位
【授業の概要】 具体的な相談援助事例の検討及び個別・集団援助におけるロールプレイ等の実技、グループ討議を中心として進めます。						
【授業の目的】 社会福祉の相談援助活動・援助関係は、利用者と支援者の信頼関係がないと成立しない、適切な援助関係(ラポール)を形成するには、コミュニケーション関係が成り立たないといけない。従ってこの授業ではコミュニケーション力を高めることに主眼を置く。						
【到達目標】 ○社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術を実践的に習得する。 ○専門的援助技術として概念化、理論化し体系立て実践できる能力を滋養する。						
【準備学習(予習・復習)】 次回の内容を提示するので、教科書やこれまでの配布プリントで再学習することを奨励する。 当日、取り組んだ演習内容の振り返りを奨励する。						
【授業計画】 連続コマ、一回当たり2,5コマ 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 自己理解と他者理解 第 3 回 基本的なコミュニケーション技法 第 4 回 基本的な面接技法の習得 (かかわり行動) 第 5 回 基本的な面接技術の習得 【質問の技法】 第 6 回 課題別相談事例の援助 第 7 回 課題別相談事例を用いた支援と技法 (1) 第 8 回 課題別相談事例を用いた支援と技法 (2) 第 9 回 課題別相談事例を用いた支援と技法 (3) 第10回 課題別相談事例を用いた支援と技法 (4) 第11回 地域福祉の事例と実技 (1) 第12回 地域福祉の事例と実技 (2) 第13回 地域福祉の事例と実技 (3) 第14回 地域福祉の事例と実技 (4) 第15回 まとめ						
【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会編「相談援助演習」2014 弘文堂						
【参考書】 随時紹介する						
【成績評価基準】 出席状況、受講態度、授業中のレポートによって総合的に評価する。						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受講資格の必須科目です。演習は主体的な参加と討議によって成立します。積極的な姿勢で臨んでください。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、社会福祉士をみざして学習に取り組んで欲しい。						

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	3年次 期	必選別	単位数 単位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】 第16回 実習体験の一般化(1) 第17回 実習体験の一般化(2) 第18回 自己覚知と他者理解(1) 第19回 自己覚知と他者理解(2) 第20回 コミュニケーション技法、面接技法の振り返りと実技 第21回 実習事例の分析 第22回 実習事例を用いた支援と技法(インテーク) 第23回 実習事例を用いた支援と技法(アセスメント他) 第24回 実習事例を用いた支援と技法(実施とモニタリング) 第25回 実習事例を用いた支援と技法(効果測定他) 第26回 地域福祉の事例と実技(アウトリーチとニーズ把握) 第27回 地域福祉の事例と実技(地域福祉計画) 第28回 地域福祉の事例と実技(ネットワーキング) 第29回 地域福祉の事例と実技(社会資源の活用他) 第30回 まとめ			
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			

区 分	専門科目—福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明		
授業科目	相談援助実習				
英 訳	On-the-job training for Social Work Practice				
配当年次	3年次 前期夏期集中(23日間)	必選別	選択	単位数	6単位
【授業の概要】 実習機関（社会福祉施設）において、実習指導者による指導及び担当教員の巡回指導をとおして「180時間、計約23日間」の実習を行う。					
【授業の目的】 社会福祉の基本は、相談援助活動である。これができなければ、社会福祉の援助活動は成立しない。これまで授業や演習や、実習指導で積み上げてきた、知識、情報、技術、倫理観などをフル稼働させて実習に臨む					
【到達目標】 1. 相談援助にかかる知識と技術について具体的活实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 2. 社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題は悪党、総合的に対応できる能力を習得する。 3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。					
【準備学習(予習・復習)】 一日の実習が終了すると毎日、頭脳をクールダウンさせ、一日を振り返り、実習日誌を書くことで今日のまとめと明日の実習目標を明確にする					
【授業計画】 23日間の社会福祉施設における相談援助実習 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア問うとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその受容の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその間傾斜（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・有人島）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する基底への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 					
【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会編「相談援助実習・相談援助実習指導」2014 弘文堂 福祉臨床シリーズ編集委員会編「相談援助演習」2014 弘文堂					
【参考書】 適宜紹介します					
【成績評価基準】 実習中の参加態度、実習配属施設の評価、報告レポート、プレゼンテーションなどによって総合的に評価します。					
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目（実習）です。実習に臨むべく明確な目的意識と主体的な参加、積極的な姿勢で臨んでください。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。					

区 分	専門科目—福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明		
授業科目	相談援助実習指導				
英 訳	Supervision of On-the-job training for Social Work Practice				
配当年次	3 年次 前・後期(及び夏期集中)	必選別	選択	単位数	3 単位
【授業の概要】 グループ討議、個別指導、自己学習をとおして実習目的・動機の明確化、実習先の選択、実習計画書の作成を行う。また実習前には社会福祉施設の見学等をおし実習における目的や意義等の再確認を行う。実習後においては実習体験の振り返り、実習報告書の作成、実習報告会等をおして相談援助の実践力を習得する					
【授業の目的】 相談援助に必要な、知識、情報、技術、倫理観を習得する。利用者理解のためのコミュニケーション力を高める。					
【到達目標】 ○相談援助実習の意義を理解する。○相談援助にかかる知識と技術について実践的な技術等を体得する。 ○社会福祉士としての資質、技術、倫理、自己に求められる課題等を把握し、総合的に対応できる能力を習得する。○具体的な体験や支援活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる能力を滋養する					
【準備学習(予習・復習)】 今回の内容を教科書から理解することを奨励する。授業終了後は必ず振り返りを行うことを奨励する					
【授業計画】⇒前期30コマ 夏期集中30コマ 及び後期30コマ 第 1 回 相談援助実習のオリエンテーション 第 2 回 相談援助実習の意義と目標 第 3 回 相談援助実習の目的 第 4 回 相談援助実習施設に関する理解 (1～3) 第 5 回～6 回 利用者理解 (1～2) 第 7 回～8 回 実習目的・動機の明確化 (1～2) 第 9 回～11 回 実習計画書の作成 (1～3) 第12 回 事前訪問とその意義 第13 回 実習におけるプライバシー保護 第14 回 ～15 回 実習日誌の書き方、記録の意義 (1～2) 第16 回～20 回 実習における心得 (1～5)					
【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会編「相談援助実習・相談援助実習指導」2014 弘文堂					
【参考書】 適宜紹介します。					
【成績評価基準】 出席と参加態度、実習配属施設の評価、報告レポート、プレゼンテーションなどによって総合的に評価します。					
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。 実習に臨むべく明確な目的意識と主体的な参加、積極的な姿勢で臨んでください。 担当教員は社会福祉士及び現場実践経験者、社会福祉士を目ざして学習に取り組んで欲しい。					

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	年次	期	必選別
			単位数
			単 位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】			
第2 1回～3 0回	社会福祉実践現場の見学と実習及び帰校学習		
第3 1回～3 2回	実習記録の整理 (1～2)		
第3 3回～3 4回	実習体験の課題整理 (1～2)		
第3 5回～3 9回	実習成果の振り返りとまとめ (1～5)		
第3 6回～3 7回	実習体験の一般化 (1～2)		
第3 8回～4 0回	実習事例の分析 (1～3)		
第4 1回～4 3回	実習報告会に向けて (1～3)		
第4 4回	実習報告会		
第4 5回	まとめ		
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	堀川 厚士			
授業科目	介護保険技術Ⅱ					
英 訳	Clerical Work for Care Insurance Ⅱ					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の概要】 ・介護保険・介護報酬の基本的知識を深め、理解する。 ・居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービス報酬の構造と介護報酬請求基礎事務を身につける。 ・「介護保険事務士」の認定資格に合格する力を身につける。						
【授業の目的】 ・介護保険制度の仕組みを理解し、基本的な専門知識を得る。						
【到達目標】 ・「介護保険事務士」の認定資格に合格する						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明な点は質問すること、テキストの内容を理解すること						
【授業計画】 第 1 回 介護保険制度の概要 第 2 回 介護報酬の基本的知識 第 3 回 介護報酬全体の関連把握と介護給付理解 第 4 回 居宅サービス（訪問系介護給付・訪問系介護予防給付） 第 5 回 居宅サービス（訪問系介護給付・訪問系介護予防給付） 第 6 回 居宅サービス（通所系介護給付・通所系介護予防給付） 第 7 回 居宅サービス（短期入所介護給付・短期入所介護予防給付） 第 8 回 地域密着型サービス 第 9 回 介護予防・日常生活支援総合事業サービス 第 10 回 施設サービス 第 11 回 施設サービス・特定施設 第 12 回 公費負担等その他、制度の理解 第 13 回 全般の介護保険事務士実務 第 14 回 全般の介護保険事務士実務 第 15 回 全般の介護保険事務士実務						
【教科書】 ・「介護保険事務士養成テキスト」（つしま医療福祉研究財団）						
【参考書】 ・「介護保険事務士養成テキスト」学科編・実務編・コード表等、関連資料						
【成績評価基準】 ・期末試験（100%）による						
【メッセージ】 ・この授業は、介護保険事務士資格(一般財団法人資格)を取得することを目的としているので、集中して学習に取り組むこと。						